
孤独

春桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤独

【NZコード】

N6828L

【作者名】

春桜

【あらすじ】

人の辛いこと、それは孤独だ。

行く道は、いつも幸せではないのだ。

しかし、人は辛くとも生命を受けければ生きる義務がある。

いつから独りなんだらう。覚えていない。

いつも独りこの灰の土の上を歩いた。
着いてくるものもいない。すれ違うものもいない。
でも、平等にあるものがあるのだ。
だれかきっと同じ空を見ている。そう思つのだ。
そうすると、空を見上げて歩いた。

ひたすらに。ただただ仲間を求めて。嬉しさを求めて。

ここに時間もなにも存在しない。腹も減らないし、眠たくもならない。
ただ夜のまだ。きっと我への罪なのだらう。それでもいい。罪は
うける。

さすがに生まれてからずっと歩いていると、思いにふける。
どうして、生まれてきたのとか、我と同じ人間はいるのかとか。
絶望もいいとこだ。

歩いて、歩いて。仲間見つからなかつたらどうすればいいのだらう。
生きる意味などあるのだろうか。死んだほうが楽かもしれない。

そんな時。

「人か 」
「！」

後ろから声がした。振り返ると人ではないにかが見える。黒く体
のよつた原型はある。目もあるのだ。しかし、違う。人ではない。

「あなたは . . . ?」

「わしはこの世界に墜ちた人だつたものだ。今はただの弱者の残骸だ。」

弱者の残骸 . . . ?

「貴公、何故生きているのだ？」

「どういう . . . 」

彼は潰れたような金色に光る目をギラギラさせてこちらを見る。
「ここには貴公のような人はいてはならない。どこかへ消えろ。」
せつかく会話できたのに。人でなくとも会話したのは初めてだ。しかし彼は拒絶する。最後まで我を独りにする。

「我はここで生まれた。自分が生まれたこの場所でいてなにが悪い！」

怒りの声を上げてしまう。

「そうか。しかし、人には会えなかつただろ。ずっと、独りだつたのだろ。人が一番辛いのは孤独であることだ。貴公がよければ、我々の仲間にならぬか？」

「えつ ?？」

仲間？？な、かま . . . 。

「貴公をこの世界にあげてしまったのは我々の罪だ。償いといえるのかわからないが貴公を独りにしないよ。」

嬉しかつた。生きる意味ができた。そつだ。できたんだ。

我はもう「独りじやない」！！

これが悲しみの始まりだとも気付かぬ、彼は喜びに満ちていた。
未来という絶望の刃をつけられても。

(後書き)

シリアスな話が好きです。参考はブリーチのアランカルさんたち。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n68281/>

孤独

2010年10月10日20時37分発行